

# 「ケーブルタイル<sup>®</sup>」システムの施工マニュアル

ダイヤ・カーペット株式会社

( 2016 年 9 月 1 日改訂 )

## はじめに

「ケーブルタイル」は、19.0mmの厚さの中に、電力や電話、情報のケーブルを配線できるOAフロアタイルです。

「ケーブルタイル」システムは、床材に塩ビ・リサイクル材料から製造した「ケーブルタイル」と、表材に自己粘着性タイルカーペット「カペタイル」を使用頂くことにより、天井高を気にせず理想的なオフィス環境を創造するシステムです。

標準的な施工工程は次の通りです。

「ケーブルタイル」施工 → 配線施工 → タイルカーペット施工。

本「ケーブルタイル」システムの施工に際し、仕上げ材の「自己粘着タイプ」の施工については、『「自己粘着タイプ」についてのご注意』をご一読下さい。

## I. 「ケーブルタイル」の施工

### 1. 床下地の調整

「ケーブルタイル」施工の前に床の状態を確認し、不備の点がありましたら、次の通り調整を行なって下さい。

- (1) 床下地に不陸(面が平らでないこと)がある場合は事前に補修剤で不陸調整を行って下さい。
- (2) リニューアルでカーペットが敷かれている場合は、既存品を剥がして下さい。接着剤がクシ目を立てた状態の場合はケレン作業で接着剤を除去して下さい。Pタイル、塩ビ長尺シートの場合は撤去せずに直接施工できます。但し、床面に破損している箇所があれば、補修して下さい。

### 2. 床の清掃及び養生

- (1) 床面のゴミやホコリを掃除機等で除去して下さい。
- (2) ワックス、グリス、油類などの汚れが有る場合は完全に除去して下さい。
- (3) 床下地に湿気がある場合は、下地を乾燥させて下さい。(下地水分は8%以下として下さい)
- (4) すべりやすい床材の場合は、必要に応じて粘着剤を塗布して下さい。この場合は下地床材の水分が8%以下、pHが8以下になってから施工して下さい。これを外れると接着不良や異臭が発生することがあります。特に新たに工事した下地に施工する場合は十分に養生して下さい。また、セルフレベルング剤にはアルカリ性が強いいため、長期にわたってpHが高い場合がありますので、ご注意下さい。

### 3. 墨出し

部屋の寸法を測定し、まずタイルカーペットの施工位置を決め、それにより割出した基準線より25cmずらして「ケーブルタイル」の敷き込み基準線を墨出しして下さい。

### 4. 「ケーブルタイル」の敷き込み

- (1) 通常は粘着剤を塗布せずに、基準線より「ケーブルタイル」を置き敷きで市松を標準にして敷き込んで下さい。(配線状況によっては一方向での流し貼りにて敷き込んで下さい)
- (2) 敷き広げる時は、隣接する「ケーブルタイル」間の配線溝の切り込みが、前後左右合うように留意して施工して下さい。

## 5. 壁際、柱際の処理

壁際や柱際の処理は、「ケーブルタイル」を寸法に合わせてカッターナイフでカットして納めて下さい。  
(タイルカーペットの施工方法と同様に行ってください。)

## 6. ドア下の処理

必要に応じて専用スロープを使用し、納めて下さい。

## 7. 「ケーブルタイル」施工完了後、天井工事等ホコリの発生する工事がある場合は、ビニールシート等で養生して下さい。

## II. タイルカーペットの施工

「ケーブルタイル」システムは、上にご説明しましたとおり、表材には、「自己粘着タイプ」を使用頂くことを基本としております。「自己粘着タイプ」「カペタイル」は予め裏面に粘着剤を塗布した自己粘着性タイルカーペットですから、通常の置き敷きで施工が可能です。

(もし、表材として「自己粘着タイプ」「カペタイル」以外の、一般的なタイルカーペットをご利用になることも可能ですが、その場合は、「ケーブルタイル」表面に粘着剤を部分的に塗布していただく必要がございます。また、粘着剤の塗布に当たっては、「ケーブルタイル」の付属部品施設箇所及び切り込み溝に入らない様に、十分にご注意下さい。)

### 1. 清掃

「ケーブルタイル」表面のゴミ、ホコリをきれいに清掃して下さい。

### 2. 墨出し

先に「ケーブルタイル」の基準線を出す為に割出したカーペットタイルの基準線で墨出しして下さい。  
(「ケーブルタイル」の基準線より25cmずれた位置になります。)

### 3. 敷き込み

基準線に従ってタイルカーペットを「ケーブルタイル」上にまたぎ貼りで敷き広げて下さい。市松貼りを標準とします。

### 4. 重歩行、台車の往来が予測される所で、タイルカーペットのズレが発生する可能性のある場合は、粘着剤を「ケーブルタイル」側に少量塗布して下さい。

## III. ケーブルの配線施工

### 1. 「ケーブルタイル」の配線

(1) 配線計画図に従って配線に当たる切り込み部分をチョーク等でマーキングし、分離部分を取り出すことにより配線溝をつくり、ケーブルを敷設して下さい。ケーブル敷設後、専用配線カバーを使用しケーブルを保護して下さい。

- (2) 配線カバー類は離脱防止・可動防止の観点から多少きつめに入るように設計されています。設置の際は敷設したケーブル線等を傷つけないよう注意しながら体重をかけ押し込んで下さい。それでも入りにくい場合は木槌等で配線カバーが変形しないよう気をつけながら叩いて設置して下さい。
- (3) 配線カバーはケーブルタイル同士を跨ぐことなく設置して下さい。
- (4) 配線カバーは必要に応じて切断し、長さを調整して下さい。切断の際は手で折り曲げて切断することなく電動カナノコ等で切断して下さい。さらに切断面の金属バリを取り除いてから設置して下さい。
- (5) 配線カバーの設置は、電気工事・情報通信工事の一部の為、電気関係業者・情報通信関係業者に作業して頂くことをお勧めします。

2. 配線方法に関して電気設計・情報通信設計及び施工上留意すべき事項を次に述べます。

- (1) 配線の設計及び施工に当たって、まず電力線は電気設備技術基準、電話線はNTT配線基準に、情報線はOA機器メーカーの配線基準に従って実施して下さい。
- (2) オフィス内のレイアウト負荷及び「ケーブルタイル」の配線容量を考慮し、事前に配線計画図を作成し、それに基づいて施工して下さい。
- (3) 配線計画に当たっては次の事に配慮して下さい。
  - A. ケーブルの配線容量は以下に示すとおりで、これをオーバーしないようにして下さい。

「ケーブルタイル」の配線容量(MS-19)

種 類		仕 様	外径(mm)	349-16 使用 (溝幅 33mm)	KCC250 使用 (溝幅 250mm)
電力線	VVF ケーブル	600V 1.6mm 2 芯	6.2×9.4	4 本	25 本
		600V 1.6mm 3 芯	6.2×13.0	4 本	25 本
		600V 2.0mm 2 芯	6.6×10.5	4 本	23 本
		600V 2.0mm 3 芯	6.6×14.0	4 本	23 本
情報線	ペアケーブル	13-CS 0.65mm	4P 7.0φ	8 本	45 本
		PDS 0.51mm	4P 4.7φ	18 本	100 本
	同軸ケーブル	5C-2V	7.6φ	8 本	40 本
	将来対応	—	5.0φ	2 本	10 本
電話線		0.5mm	2P 4.0φ	21 本	115 本
		0.5mm	4P 5.0φ	18 本	95 本
		0.65mm	4P 7.0φ	8 本	45 本

B. 同一配線溝に電力線と電話線、情報線のケーブルを共存させず、各々を25cm間隔にある別の溝を通して下さい。

C. 原則としてFケーブルと通信ケーブル(LANケーブル等)の交差は避けて設計して下さい。

- (4) 無理な配線にならない様に、電気関連業者・通信関連業者等の関係者が事前に協議し、配線計画をたてて下さい。
- (5) リニューアル時には不要のケーブルを取り除いて下さい。
- (6) 配線に当たっては、「ケーブルタイル」表面に配線ルートをマーキングペン等で記入し、電力、電話、情報の各ルートが識別できるよう名称を記入しておくこと後日の配線管理が容易になります。

- (7) ケーブルには無理なテンションがかからぬよう配線規程に従って配線して下さい。溝巾、方向転換等により専用カバー(349-16、CRC-16、KCC-250、KCC-500)がありますので、必ず使用してケーブルを保護して下さい。
- (8) フロアダクト及び電線管からケーブルを取り出し配線する場合は「ケーブルタイル」にスタッドカバー(STC-19)を埋め込み施工して下さい。
- (9) OAタップの設置方法  
ジョイントボックス(CJB)を使用することにより、Fケーブルと棒端子付きOAタップ(COAT6)を簡単に接続できます。またFケーブルの送り(ケーブル延長)にもご利用できます。
- (10) ケーブルの床表面への取り出し  
A. 電源線は(9)で説明したジョイントボックスとOAタップを使用し取り出すことを推奨いたします。専用の取り出し部材は準備していない為、その他の接続方法での電源線の取り出しやLAN・電話等の配線の取り出しは、配線カバーを一部切断し、1~2cm程度の隙間を作り、その隙間から取り出して下さい。  
B. 次にタイルカーペットに切り込みを入れて、その場所から行って下さい。その際は、タイルカーペットの端部より取り出す場合は二の字カット、内部より取り出す場合はT字又は十字カットにて取り出して下さい。
- (11) 実配線で配線計画図のルートを変えた場合やレイアウト変更に伴い配線変更した場合は、配線図を修正しておき、以後の配線管理に役立てて下さい。

以上

※「ケーブルタイル」「カペタイル」はダイヤ・カーペットの登録商標です。